

中小企業の業況は、引き続き持ち直しの動きが見られるものの、依然として厳しい状況にある。

山口商工会議所では、管内中小企業100社を対象に景況調査を実施し、このほど平成22年4～6月期の実績と平成22年7～9月期見通しについての調査結果をまとめた。（回答率87％）本調査は3ヶ月毎に年4回行う。

業況DI値について、前年同月比の今期（平成22年4～6月）の状況を集計したところ、全業種の業況判断DIは、マイナス横ばいで推移している。

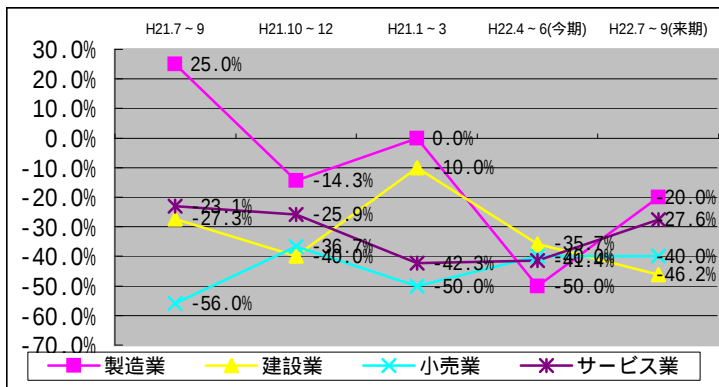
全業種のDI値に見る業況判断は製造業：0%→▲50%、建設業：▲10%→▲36%、小売業：▲50%→▲40%、サービス業：▲42%→▲41%となった。小売業で回復がみられる一方、製造業、建設業は大幅な悪化であった。

新規設備投資について、今期中に設備投資を実施した企業は全体の9.3%、来期設備投資を計画する見通しである企業は12.8%であった。また、今期の経営問題では、各業種とも需要停滞感が根強く、収益面で引き続き厳しい状況と見ている。景気動向の不透明感は拭えず、競争力強化への取り組みが進んでいる。

業況DI値（今期の状況）

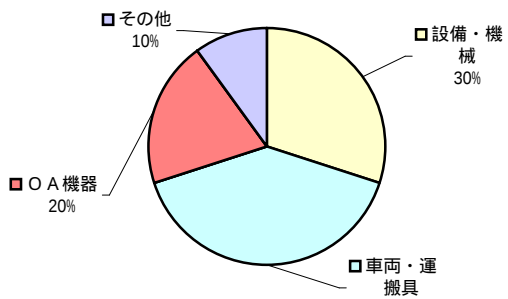
	業況判断	前回調査比	売上	前回調査比	資金繰り	前回調査比	仕入単価	前回調査比	経常利益	前回調査比	従業員数	前回調査比
全産業	-43%	→	-44%	→	-38%	→	-1%	→	-50%	→	-6%	→
製造業	-50%	↘	-40%	↘	-30%	↘	10%	→	-50%	↘	0%	↘
建設業	-36%	↘	-50%	→	-50%	→	7%	→	-57%	↘	-7%	→
小売業	-40%	↗	-27%	↗	-40%	→	0%	↗	-47%	→	-7%	→
サービス業	-41%	→	-59%	→	-38%	→	-10%	→	-48%	→	-7%	→

産業別業況判断DI（前3期からの推移と来期見通し）

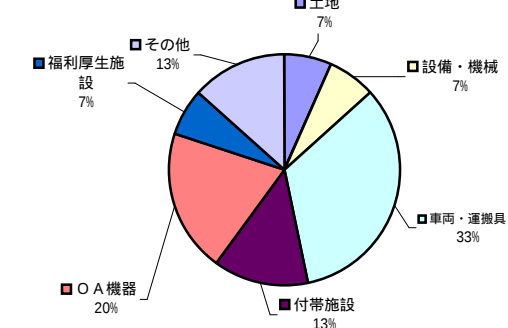


新規設備投資（今期実施・来期計画）

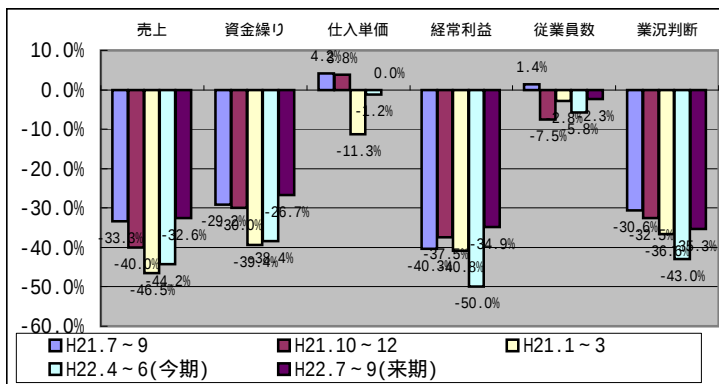
【今期の実施内容】



【来期の実施計画】



全産業DI項目別比較（前3期からの推移と来期見通し）



経営上の問題点

	製造業	建設業	小売業	サービス業
1位	需要の停滞 28.0%	民間需要の停滞 30.6%	需要の停滞 23.4%	需要の停滞 19.7%
2位	取引条件の悪化 8.0%	官公需要の停滞 19.4%	購買力の他地域への流出 9.1%	利用者ニーズの変化への対応 21.1%
3位	生産設備の不足・老朽化 12.0%	請負単価の低下・上昇難 13.9%	販売単価の低下・上昇難 11.7%	利用料金の低下・上昇難 7.9%

DIとは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての増加(好転)企業割合から減少(悪化)企業割合を差し引いた値を示す。